

2020年3月31日

中国黒鉛電極の市場動向

CMI

電気炉向け黒鉛電極は、2019年前半まで、中国における需要が急増した反動で価格が下がり傾向にあった。ここに来て、さらに新型コロナウイルスの感染による影響が大きい。自動車工場の生産停止等で鉄鋼需要の大幅な減退を招き、中国政府は工場再開を指導しているものの、黒鉛電極市場においても、市場回復にはまだ時間がかかると思われる。

1. 新型コロナウイルスの影響

2019年11月から12月にかけて、中国黒鉛電極企業はそれぞれ減産計画を立て、主にUHP黒鉛電極の生産削減を示していた。現在、黒鉛電極の市場価格は原価を下回り、利益がなく、中近東地域の需要も弱まっている。

新型コロナウイルスの感染の影響で、ガソリンと軽油の需要が弱まり、製油所の稼働率が下がった。その中で、低硫黄石油コークス仮焼設備の操業停止は難しいので稼働を継続しているが、原料の供給が不足しているため、石油コークスの価格は上昇すると見込んでいる。

中国における電炉鋼の生産は、新型コロナウイルスの感染の影響で生産が落ち込んでいる。現在の生産回復率は20%である。

3月から多くの企業が生産を回復しているが、未だに黒鉛電極に対する需要量に反映されない。3月下旬には小口径の黒鉛電極はある程度市場が回復すると予測されるが、価格上昇幅は限られる。大口径黒鉛電極製造設備の稼働は弱含みのままである。

統計によると、2020年2月は中国の主要黒鉛電極生産企業18社で合計3.75万トンの黒鉛電極を生産したが、昨年同期比で20.2%減少となった。

2. 2019年の動向

2019年1～11月の中国市場での黒鉛電極の総取引量は74.3万トンで、前年同期より17.2%増となり、年間80万トンと見込まれて前年同期より14.2%増と推測される。

2019年の生産量の内訳として、GP黒鉛電極は前年同期より2.5万トン減の12.3万トンで、16.7%減、HP電極は前年同期より3.0万トン増の21.5万トンで16.12%増加、UHP電極は前年同期より10.3万トン増の40.5万トンで34.2%増えた。

2019年の中国の黒鉛電極の輸出量は2018年より11.1万トン増の39.8万トンで、前年同期より38.7%増であった。

2019年の石炭系ニードルコークスの輸入量は2018年同期より6.9%減の8.8万トンであった。

韓国から6.0万トン(PMC)、日本から2.7万トンを輸入し、それぞれ全輸入量の66.0%と32.9%を占めているが、2018年同期よりそれぞれ9.4%、17.1%減少した。その原因としては、①中国の石炭系ニードルコークスの生産能力と生産量の増加、②中国の黒鉛電極市場の供給過多の二つの要因が考えられる。

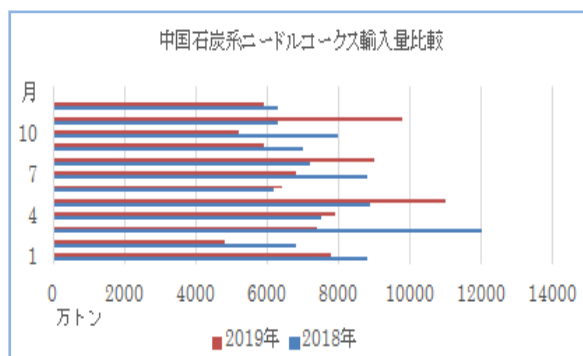


図1 石炭系ニードルコークス中国輸入量実績

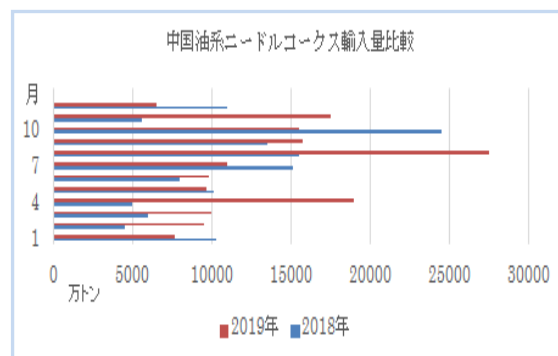


図2 石油系ニードルコークス中国輸入量実績

ニードルコークスの負極材料としての需要は高い。2019年の石油系ニードルコークスの輸入量は2018年同期より36.9%増の16.1万トンとなった。2019年の中国負極材料の生産は2018年同期より83.7%増であった。石油系ニードルコークスとして、英国から11.0万トン(P66)、米国から3.3万トン(P66)を輸入し、主に負極材料とUHP黒鉛電極の生産に使われている。

情報源：盟炭国際網、百川情報等のネット情報により整理作成。